

地域還元施設等整備基本構想を策定しました。

新広域ごみ処理施設建設のために、やむなく解体した白雲荘に替わる新しい還元施設について、平成31年3月19日の第6回地域還元施設等検討委員会において基本構想がまとまりました。

これまで茨城大学人文社会科学部 原口 弥生教授のほか、地元区長会長等の地元住民を代表する方々に委員として参加していただき、計6回検討委員会を開催してまいりました。



検討委員会では、白雲荘の利用者団体へのモニタリング調査、構成市町住民へのアンケート調査、高校生によるフューチャーセッションなどを実施し、幅広い住民の意見集約に努めてまいりました。また、周辺の類似施設の配置状況や実績から必要と考えられる施設規模を想定し、前述した調査結果を踏まえシミュレーションモデルとしての施設イメージを作成しました。

今回策定された基本構想を受け、平成31年度には建設予定地を決定し、より具体的な施設内容・運営体制等を盛り込んだ基本計画の策定を予定し、平成34年度の開館を目指して進めてまいります。

基本構想策定に係るアンケートやフューチャーセッション、パブリックコメント等におきましては、多くの貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。今後につきましても、地域に寄り添いスピード感をもって事業推進に努めていきますのでご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

※本件掲載内容は、今後一部変更等が生じる場合もあります。

【本件事業に関するお問い合わせ先】

□事業全体に関するもの：霞台厚生施設組合 建設計画課 TEL 0299-56-7773

組合ウェブサイト (<http://kasumidai.or.jp/>) に関連資料を掲載しています